



「SCマンスリーまつばら」は、世界基準の安心・安全なまちづくりセーフコミュニティについて知っていただくための連載です。

高齢者の見まもり活動をひろげよう

平成28年8月末現在、市の人口は約12万1600人です。そのうち65歳以上の高齢者は約3万5000人で高齢化率は28・89%となっています。

高齢者の安全対策委員会では、「もしもキット」「もしもカード」の普及に努めています。

これは、緊急連絡先やかかりつけ医などを記入した用紙を自宅の冷蔵庫に保管しておき、外出時にはカードを携帯し、もしもの場合に備えるものです。

用紙は高齢介護課、障害福祉課、総合福祉会館、各老人福祉センターで配布しており、市のホームページからもダウンロードできます。

ぜひ、ご近所での声かけや見守りの際に「もしもキット」「もしもカード」を紹介してください。

4月～8月末までの救急出動時に「もしもキット」を確認した件数は12件ありました。

認知症サポーターの輪をひろげよう

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりをめざし、全国で「認知症サポーター」が養成されています。松原市内でもこれまで4000人以上がサポーターとなっており、皆さんの地域で見守り手となっています。「認知症サポーター」は認知症の人やそのご家族を温かく見守る、地域の応援者です。職場や、近所でお困りの人を見かけたら声をかけるなど、皆さんにもできることがあります。

また、認知症サポーター養成講座の講師となる「認知症キャラバン・メイト」はこれまで100人以上が誕生しています。趣味のサークルやPTA仲間とお茶を飲みながら、自治会の集まりなど、少人数が集まる機会に、養成講座を受けてみませんか。

▼問合せ 高齢介護課

高齢者へのヘルメット普及啓発を行いました

大阪府の自転車条例が施行されて以降、本市において自転車用ヘルメットを購入した高齢者は約1,000人にのぼり、高齢者への自転車用ヘルメットの普及が進んでいます。高齢者への自転車用ヘルメットのさらなる普及を目指し、松原市老人クラブ連合会の発案により、同会員約120人が、高齢者自転車ヘルメット普及促進キャラバン隊を結成し、「まつばら市民まつり」の一環として8月6日に行われた「まつばら市民パレード」に参加し、「被ろう 安全 ヘルメット」のスローガンを掲げ、高齢者の自転車用ヘルメットの普及啓発を行いました。

当日は、松原交通安全協会が斡旋、販売をしている帽子付きヘルメットを多くの方がかぶり、沿道の市民の皆さんにヘルメットの着用を呼びかけました。

▶問合せ 市民協働課



▲市民まつりでの啓発の様子

11月5日(土) 午前10時～11時30分

市役所8階にて、認知症サポーター養成講座を開催します。ぜひご参加ください!

また出前講座もやっています! あなたの職場・地域で講座を開きませんか? 詳細は社会福祉協議会(☎333-0294)まで。



▲もしもキット・もしもカード



▲キャラバン・メイト養成講座